

課題情報シート

テーマ名：	Infinite possibility of the RIKUZENTAKATA ー3.11の教訓を活かした陸前高田市都市復興計画ー		
担当指導員名：	的野博訓	実施年度：	26年度
施設名：	北海道職業能力開発大学校		
課程名：	専門課程	訓練科名：	建築科
課題の区分：	総合制作実習課題	学生数：	1
		時間：	12単位（216h）

課題制作・開発のポイント

【開発（制作）のポイント】

本計画は、3.11での被害が非常に大きかった岩手県陸前高田市に焦点を当て、都市復興計画及び防災都市計画を創造したものである。その中で近年希薄になりつつある地域コミュニティの復興を「地域住民が創る都市」という思考の基、都市と建築を一体化し、人と人、人と自然、人と動物とのコミュニティを深め合う都市建築を目指します。復興計画を進めていくにあたり、市に居住している方の意見が必要不可欠であった為「陸前高田未来商店街」を始めとした法人及び店舗を営んでいる代表の方4名に間接的にアンケートを依頼し、24部の回答を得た。アンケート回答者は男女20～70代までと幅広い年齢層の方から所見を頂き都市構想する上で欠かせない市民の生の声を集めることができました。さらに、現地調査は8月23、24日の2日間で行い、調査内容は「現時点での復興進度」「被災状況の把握」「現地の撮影及び地形の観察」等を行いました。

アンケート結果、現地調査をもとに、区画整理を考え、高台に計画する居住地区内への浸水を防ぐ為、起伏のある地形に造成し、2ヶ所の防潮林やフレア護岸などで津波のエネルギーを拡散・消滅させ防潮計画を強化した防災計画を計画しました。さらに、メインストリート、新JR路線、小川が交差する地区を「計画地区」とし、市のランドマークを企画・設計。主に新陸前高田駅、集合住宅、駅前広場を計画範囲としました。

【訓練（指導）のポイント】

駅や集合住宅のゾーニング・動線計画・機能はもちろんの事、公園設計、さらには今後の市全体を考える都市計画の知識や、被災地のためこれからの防災計画の知識も必要です。

北海道と遠く離れたところから、アンケートを取りそれをもとに設計を行います。アンケートの作成方法および散々する集計から結果抽出・分析方法の習得が必要不可欠となります。現地調査も行いました。アンケートや現地調査から設計にフィードバックできるものの抽出などが最も難しい所でした。また、現地調査やアンケート依頼など多くの地域の方々との連携がありますので、マナーも必要です。

加えて、学内ポリテクビジョンだけではなく「日本建築学会北海道支部賞」の参加、A&A社が主催する今夏の「Vectorworks®教育シンポジウム2015」で発表が予定されているので、緻密繊細かつ高度なプレゼン資料作成も習得させることが必要です。

課 題 に 関 す る 問 い 合 わ せ 先

施 設 名 : 北海道職業能力開発大学校
住 所 : 〒047-0292 北海道小樽市銭函 3 丁目 190 番地
電話番号 : 0134-62-3553 (代表)
施設 Web アドレス : <http://www3.jeed.or.jp/hokkaido/college/>

課 題 制 作 ・ 開 発 の 「 予 稿 」 お よ び 「 テ ー マ 設 定 シ ー ト 」

次のページ以降に、本課題の「予稿」および「テーマ設定シート」を掲載しています。

Infinite possibility of the RIKUZENTAKATA

～ 3. 11 の教訓を活かした陸前高田市都市復興計画 ～

1. 緒言

本計画は、3. 11 での被害が非常に大きかった岩手県陸前高田市に焦点を当て、都市復興計画及び防災都市計画を作成したものである。その中で近年希薄になりつつある地域コミュニティの復興を「地域住民が創る都市」という思考の基、都市と建築を一体化し、人と人、人と自然、人と動物とのコミュニティを深め合う都市建築を目指した。

2. 陸前高田市の特色

岩手県東南部に位置する陸前高田市は、三陸海岸特有のリias式海岸であり、全長約 2 km に及ぶ砂浜と名勝「高田松原」を有する。名産はワカメ・昆布等の海産物やブランド米「たかたのゆめ」が有名であり、シュロ・ビワ等も生育し、野生の椿が厳寒に紅い花を咲かせる程の県内最も気候が温暖で海や山が傍に感じられる自然豊かな町である。

3. 事前調査

3-1 市民アンケート調査

復興計画を進めていくにあたり、市に居住している方の意見が必要不可欠であった為「陸前高田未来商店街」を始めとした法人及び店舗を営んでいる代表の方 4 名に間接的にアンケートを依頼し、24 部の回答を得た。アンケート回答者は男女 20～70 代までと幅広い年齢層の方から所見を頂き都市構想する上で欠かせない市民の生の声を集めることができた。これを踏まえ都市復興計画では、「高田松原の再生」「過去に囚われない新たな都市構想」「コミュニティの輪を広げる都市空間」を主に作成していくことに決定した。

3-2 現地調査

現地調査は 8 月 23, 24 日の 2 日間で行った。調査内容は「現時点での復興進捗」「被災状況の把握」「現地の撮影及び地形の観察」等を行った。また、案内人の方や商店街の方々から貴重な体験談・ご意見を伺うことができた。更に道路の新設や政府による浸水した地域の嵩上げ作業が進められており 10 年かかる造成を 3 年に短縮する為総額 120 億円の巨大ベルトコンベアが設置されていた(写真 1, 2)。

4. 都市計画

4-1 区画整理

市内中央を「公園地区 A, B」「農作地区」「居住地区」に整理した(図 1)。松原大通から延びるストリートを 4 通り計画し、中心を走る 1 通りをメインストリートとした。

更に、メインストリート、新 JR 路線、小川が交差する地区を「計画地区」とし、市のランドマークを企画・設計する。また、本計画はアンケートから得られた市民の生の声を基軸として計画していくものである。

4-2 防災計画

高台に計画する居住地区内への浸水を防ぐ為、起伏のある地形に造成し、2 ヶ所の防潮林やフレア護岸などで津波のエネルギーを拡散・消滅させ防潮計画を強化した(図 2)。また、防潮林と併せて災害危険区域を第一波浪圏と第二波浪圏の 2 段階に分け防災圏と区分した。



左 写真 1
ベルトコンベア

右 写真 2
松の倒木と廃墟

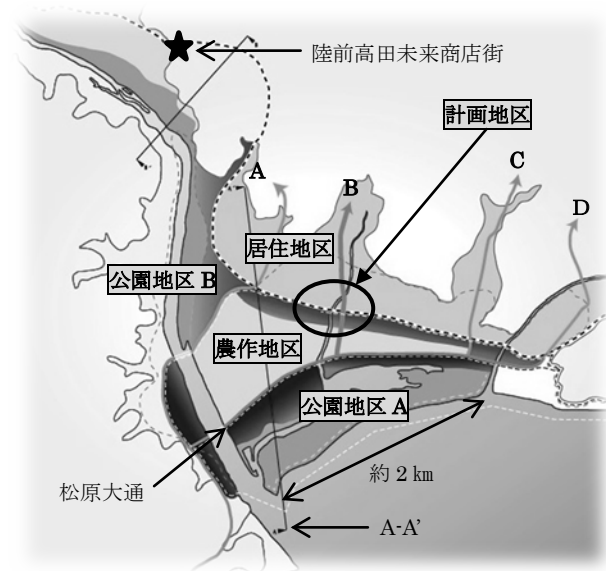


図 1 都市区画計画図

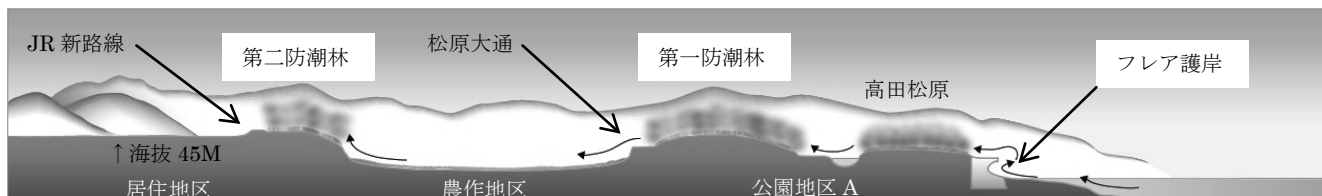


図 2 A-A' 都市断面図

5. 計画地区

5-1 ランドマーク構想

計画地区の中央を走るメインストリートを跨ぐように佇む「JR 新駅舎」「集合住宅」と「駅前広場」を合わせ、一つのランドマークとして構想したものである（図3）。更に、その3点を結ぶ空中廊下を設けた。加えてランドマーク周辺に「住居地」「商店街」「ビジネス・娯楽街」をアンケートの回答を基に配置した。併せて公共施設群を近隣に配し、都市機能を密集させることによりスマートタウン化を図ったものである。

5-2 デザインコード

新駅舎は陸前高田の豊かな自然を題材としており、1階アトリウム空間においては山の重なりと木々をトラスで表現した（図4）。また、建物を3ブロックの山に見立て山から山へコミュニティの虹が架かる様をイメージした4階の空中スラブも見どころの一つである。加えて、一路に伸びる一本松を連想させるバットレスを添えたファサードとなっている（図5, 写真3, 4）。

集合住宅のファサードは市の鳥と花である「カモメの翼」と「椿の花卉」をモチーフとしている（図6）。住宅部は「シニア層」「シングル層」「ファミリー層」に分け、若者及び近隣病院が高齢者を見守れる空間づくりを目指した（図7）。

6. 結言

本計画は現地調査及び市民アンケート調査を実施し、市民の方の声を可能な限り取込むことに努め、今後の陸前高田市の一つの有り方を提示したものである。加えて、アンケート結果より駅前広場で陸前高田七夕祭りが行える空間や雑談できる空間を置くことで都市空間に地域コミュニティを再構築しようとしたものである。頂いたアンケートの回答集及び図面集は市へ提出する予定である。更に、今夏8月には東京で行われる「Vectorworks® 教育シンポジウム 2015」にて本計画を発表する。

今後、復興に本計画が少しでも寄与できれば幸いである。十年後、二十年後の陸前高田の無限の可能性に祝福を。

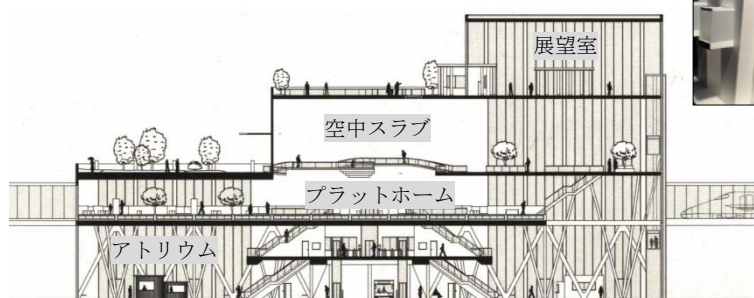


図5 JR新陸前高田駅 断面図

謝辞

本計画を進めるに際し、「復興庁 岩手復興局」並びに「陸前高田市」及び「陸前高田未来商店街」並びに「認定特定非営利活動法人 桜ライン 311」「レインボーサライ」「たがだ屋 一本松店」の代表の方を始めとしたアンケート回答者の皆様にご協力を賜りました。感謝の意をここに表し、心から感謝申し上げます。



図3 ランドマーク配置図

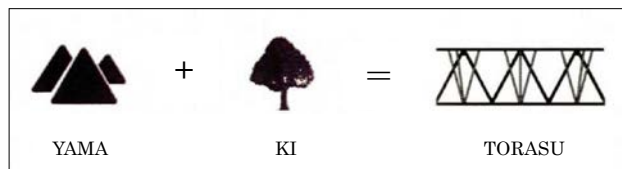


図4 デザインコード1

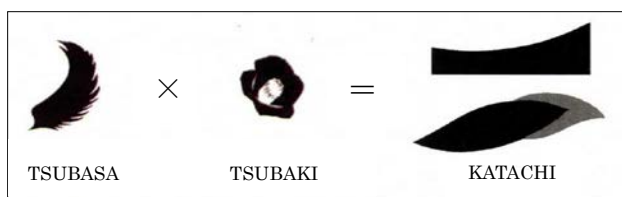
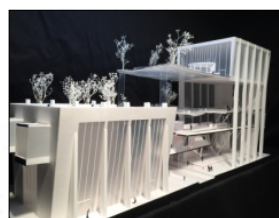


図6 デザインコード2



左 写真3
新駅舎断面モデル

右 写真4
新駅舎内観モデル



図7 集合住宅 兼 資料館 断面図

課題実習「テーマ設定シート」

作成日：2月 13日

科名：建築科

教科の科目	実習テーマ名	
総合制作実習	Infinite possibility of the RIKUZENTAKATA ー3.11 の教訓を活かした陸前高田市都市復興計画ー	
担当指導員	担当学生	
的野 博訓		
課題実習の技能・技術習得目標		
駅や集合住宅のゾーニング・動線計画・機能理解、公園設計、都市計画、被災地のためこれからの防災計画の知識の習得を行います。また、アンケートをもとに設計を行うためアンケートの作成方法および散々する集計から結果抽出・分析方法の習得が必要不可欠となります。現地調査も行います。アンケートや現地調査から設計にフィードバックできるものの抽出する技能習得も目標となります。現地調査やアンケート依頼など多くの地域の方々との連携がありますので、マネジメント能力、コミュニケーション能力の向上や習得も目的となります。		
実習テーマの設定背景・取組目標		
実習テーマの設定背景		
3. 11 での被害が非常に大きかった岩手県陸前高田市に焦点を当て、陸前高田市の将来あるべき姿を想定し、そのために必要な整備を行い、都市を適正に発展させようとするための復興計画が最大の目的である。 被災地に遠く離れた建築家を目指す学生がこの都市に何が出来るかを考え、都市復興計画及び防災都市計画を創造したものである。		
実習テーマの特徴・概要		
近年希薄になりつつある地域コミュニティの復興を「地域住民が創る都市」という思考の基、都市と建築を一体化し、コミュニティを深め合う都市建築を目指した。そのためには、「アンケート」「現地調査」を行い、設計にフィードバックする。新陸前高田駅、集合住宅、都市公園を設計する。		
No	取組目標	
①	建築を取り巻く諸問題を整理し、解決されるべき課題を明確にします。	
②	日程、工程、予算を総合的に評価・判断して、進捗を調整します。	
③	課題を解決するために必要な情報を収集し、分析・評価して合理的な手順や方法を提案します。	
④	設計製図、模型製作の質の向上を目指します。	
⑤	アンケート作成技術および、散々する集計から結果抽出・分析方法の習得を目指します。	
⑥	効率的に利用した分かりやすい報告書を作成し、発表会では時間内に伝えたい内容を説明します。	
⑦	学外に向けて、分かりやすい発表をするための資料作りを提案します。	
⑧	5S（整理、整頓、清掃、清潔、しつけ）の実現に務め、安全衛生活動を行います。	
⑨		
⑩		